

北イタリア治安情勢通報

～ バカンスシーズンを前に今一度空き巣対策の確認を！ ～

イタリア政府による新型コロナウイルス感染拡大防止策の移動制限措置が緩和されたことに伴い、今後、長期間自宅を空けてのご旅行を計画されている方も少なくないと思います。

先日、当地治安当局より現状の治安情勢について聴取したところ、移動制限措置の緩和後、例年と比べて大きく減少していたスリや空き巣等の発生件数は徐々に増加しており、その中には、これまで犯罪に手を染めていなかった者が経済的困窮を理由に犯行に及んでいる例もあるとのことでした。また、例年、長期間自宅を不在にするバカンスシーズンには、空き巣被害は増加傾向にあり、本年も全く予断を許さない状態であるとのことでした。

「自分に限っては大丈夫」との楽観主義に陥ることなく、今一度、空き巣対策を確認し、「泥棒に狙われない家」にしましょう。

1 空き巣に狙われやすい家

アパートの地上階、1階（それぞれ日本の1階、2階）及び最上階

→ 最上階は、隣のアパートから屋根伝いに侵入可能

通りに面した部屋

→ 建物自体の門扉が閉まっても侵入可能

外壁に足場となる雨樋等が付属

→ 外壁に付属する雨樋等を伝わりベランダから侵入可能

玄関錠のタイプが古い、一つしかついていない

→ 古いタイプの錠は、空き巣が解錠方法を把握している場合あり。また、空き巣は短時間で侵入したいので錠が少ない方が狙われやすい。

2 防犯対策

□ 外出時の戸締まりは確実に

空き巣が一番狙っているのは、平時から開いている窓、扉です。外出時は戸締まりを徹底し、さらには、ガラス窓を割られての侵入を防ぐため、錠戸を閉めることをお勧めします。

□ 玄関扉錠の錠は可能な限り、新しい世代のものに

空き巣の手口として、特殊な器具（「CHIAVE BULGARE」）を用いて鍵穴から鍵情報を盗みとり、作成した合鍵で犯行におよぶものが多く発生しています。絶対的に侵入を防げる錠はありませんが、少なくとも古い錠はその情報を盗むのが容易なので、狙われ易くなります。

地元警察が推薦する鍵は、複製時に必要となるセキュリティカードが付いた「CHIAVE EUROPA」と呼ばれるもので、一般的に安全とのことです。

□ 在宅中でも玄関ドアは確実に施錠を

邦人在宅中に侵入され、泥棒と鉢合わせになった事例があります。そのような場合には、空き巣犯が居直って強盗犯となり、身体に危害が及ぶ可能性もあります。在宅中であっても玄関ドアは確実に施錠しましょう。

□ 警報装置等の防犯機器の設置を

警備会社又は警察と契約して、緊急出動可能な警報装置を設置することが望ましいのですが、侵入時にアラームが吹鳴するタイプのもので効果があります。

□ 万が一に備えて自宅の貴重品を分散することも

自宅が空き巣犯のターゲットとなり、入念に下準備をされて空き巣を敢行された場合、たとえ防犯性を高くしていても、防ぐことは極めて困難です。万が一侵入された場合でも、すべての貴重品を失う致命傷を負わないために、その一部を会社事務所等の鍵のかかる場所に保管することも一案です。また、クレジットカード会社の連絡先等も控えておきましょう。

本通報に関する問い合わせ先

在ミラノ日本国総領事館代表電話：02-6241141 info@ml.mofa.go.jp